

日本薬史学会 2026 年会プログラム

日程：2026 年 9 月 26 日（土）

場所：東北医科薬科大学小松島キャンパス中央棟 2 階

受付開始（9：30～）

開会あいさつ（10：00～10：05）

日本薬史学会 2026 年会 年会長 佐々木健郎

口頭発表 I（10：05～11：01） 持ち時間 14 分厳守（発表 10～12 分、質疑応答 2～4 分）

座長 河村 典久（中京大 AI 研）

0-1（10：05～10：19）

第一大学区医学校の製薬学校設立伺い再考

○川西 徹¹、青木歳幸²（¹国立医薬品食品衛生研究所、²佐賀大学特命教授）

0-2（10：19～10：33）

International Congress for the History of Pharmacy とアジアの薬学史研究について

○夏目葉子（名城大学薬学部 生薬学教室）

0-3（10：33～10：47）

医療通訳は調剤過誤を防げるか ― コミュニティ通訳史からみた言語的安全性

○佐藤晶子¹、○河野弘美²

¹ 京都外国語大学 外国語学部 英米語学科 ² 京都外国語短期大学 キャリア英語科

0-4（10：47～11：01）

奇跡の化合物キニーネとキニジン：医薬品から触媒への転生

○桐原正之^{1,2}、桐原理沙子³、塚田直史³

¹ 静岡理工科大学理工学部、² 静岡大学グリーン科学技術研究所、³ 静岡大学理学部

休憩（11：01～11：05）

特別講演 I (11:05~12:05)

座長 佐々木 健郎 (東北医科薬科大学 生薬学)

伝承の和漢薬 塩釜蜜紅華湯

田村 博義 (元 塩釜蜜紅華湯株式会社 会長)

休憩 (12:05~12:55)

*理事会

ポスター発表 (12:55~13:25)

P-1

日本薬業史における技術指導者の事例－武田二郎と塩野長次郎

○安土 昌一郎 (立教大学経済学部)

P-2

甲賀・日野の地場製薬産業の発展とその要因

—業務システムの転換—

○河合政利 (大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程)

P-3

鎌倉・室町時代のくすり

○稲垣裕美、志茂将太郎、立松和晃、森田宏 (内藤記念くすり博物館)

P-4

遠州地方に残る近世・近代の医薬資料

○山本千晶¹、北原光桜¹、丸尾紘輝¹、安井晴也¹、岡田アイコ¹、幸田愛美¹、山崎華子¹、

小栗勝也²、桐原正之^{1,3}

(¹ 静岡理工科大学理工学部、² 静岡理工科大学情報学部、³ 静岡大学グリーン科学技術研究所)

P-5

上田三平『日本薬園史の研究』の成立過程

○山形悠 (二松学舎大学文学研究科博士課程)

特別講演 II・市民公開講演会（13：25～14：25）

座長 桐原 正之（静岡理工科大学理工学部）

毒と薬と私たちの歩み～薬毒同源～

船山信次^{1,2}（¹日本薬科大学、²日本薬史学会）

休憩（14：25～14：30）

口頭発表Ⅱ（14：30～15：26） 持ち時間 14 分厳守（発表 10～12 分、質疑応答 2～4 分）

座長 鈴木達彦^{1, 2}（¹帝京平成大学薬学部²千葉大学大学院和漢診療学）

0-5（14：30～14：44）

語学の天才医師 司馬凌海の薬学への接点と貢献

○西川隆¹、飯野洋一²（¹日本薬史学会、²日本薬史学会）

0-6（14：44～14：58）

奥州市立斎藤實記念館所蔵『朝鮮薬報』に関する考察

○辻大和（東京大学東洋文化研究所）

0-7（14：58～15：12）

明治期に来日したドイツ人薬剤師ニーヴェルトの生涯

○小清水 敏昌（順天堂大学医学部医史学研究室）

0-8（15：12～15：26）

石館守三の信仰を辿る：生い立ち・第二高等学校・東京帝国大学

○森本和滋（日本薬史学会）

口頭発表Ⅲ（15：26～16：22）

座長 森田 宏（内藤記念くすり博物館）

0-9（15：26～15：40）

19 世紀末英国におけるボーンワックス(Bone Wax)の創製

—薬剤師スクワイアと脳外科医ホーズリーの医薬協働—

○柳澤波香（津田塾大学学芸学部/青山学院大学経営学部）

0-10 (15:40~15:54)

東北大学附属図書館狩野文庫所蔵の曲直瀬流切紙について

○鈴木達彦^{1,2} (1. 帝京平成大学薬学部 2. 千葉大学大学院和漢診療学)

0-11 (15:54~16:08)

アキタブキ印葉図

○河村典久 (中京大 AI 研)

0-12 (16:08~16:22)

日本における風疹研究——ウイルスの発見から

先天性風疹症候群の発生様式の解明と排除迄——

○加藤茂孝 (東京慈恵会医科大学 臨床検査医学)

休憩 (16:22~16:27)

口頭発表IV (16:27~17:09)

座長 小清水 敏昌 (順天堂大学医学部医史学研究室)

0-13 (16:27~16:41)

半世紀使われてきた医薬品の現状分析 その2

—1973年と2024年の医薬品集収載品(循環器官用薬)の比較—

○榊原 統子¹, 井上 彰¹, 伊東 弘晃¹, 松本 和男^{2,3}

¹(一財)日本医薬情報センター, ²(株)ナールスコーポレーション, ³本会名誉会員

0-14 (16:41~16:55)

我が国における向流クロマトグラフィー研究の流れ—装置開発の系譜—

○四宮一総^{1,2}、柳平和寛³ (1 (元) 日本大学薬学部、2 (現) 日本大学生産工学部、3 (元) 日本大学理工学部)

0-15 (16:55~17:09)

日本薬局方の変遷と第十九改正日本薬局方(JP19)の概要について

○但野恭一 (日本薬史学会 国際委員会)

閉会の辞・次期開催予定等 (17:09~17:19)

情報交換会 (18:30~20:30)